

平成30年6月20日(水)
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課

記者発表資料

～水辺で民活「官民連携かわまちづくり」～ ミスベリング勉強会開催のお知らせ

国土交通省では、「資源としての河川利用の高度化」に取り組んでおり、「魅力ある水辺空間の創出」方法として、水辺を活用したい人々の取り組みを積極的に支援することを方策としています。

また、「多様な主体間の連携を促進する制度・運用の改善」として、「かわまちづくり」支援制度による民間連携やミスベリング・プロジェクトとの連携にも取り組んでいます。

「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」では、水辺の賑わいによる地域活性化のために民間事業者の方々の知恵・ノウハウ・アイデアを積極的に活かせるように平成28年度に関係ルールが改訂されています。

今回は、河川のオープン化の視点からかわまちづくりとの連携が効果的な事業に特化してミスベリング勉強会を開催します。

テーマ:官民連携かわまちづくり勉強会(第1回)

主催:国土交通省関東地方整備局河川環境課

日時:平成30年7月10日(火)14:00～17:00

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館共用大研修室5A

対象者:市街地開発事業を検討している市町村及び事業者(協力社含む)

対象地域:関東地方整備局管内直轄管理河川に隣接した市町村

申し込み方法:別紙

「かわまちづくり」支援制度実施要綱の改定

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000015.html

資源としての河川利用の高度化に関する検討会

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shigenkentou/index.html

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
埼玉県政記者クラブ、都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課

課長 吉川 宏治(よしかわ こうじ) (代表)048-601-3151(内線3651)

課長補佐 黒沼 尚史(くろぬま ひさし) (代表)048-601-3151(内線3656)

FAX048-600-1379

申し込み用紙

別紙

申し込み先

国土交通省関東地方整備局河川環境課 黒沼・福元 宛

メール:ktr-kasenkankyou@mlit.go.jp

FAX:048-600-1379

※申し込み期限:7月6日(金)必着

官民連携かわまちづくり勉強会(第1回) ～都市再生整備計画を活用した河川のオープン化～

主催:国土交通省関東地方整備局河川環境課

日時:平成30年7月10日(火)14:00～17:00

場所:さいたま新都心合同庁舎2号館共用大研修室5A

対象者:市街地開発事業を検討している市町村及び事業者(協力社含む)

対象地域:関東地方整備局管内直轄管理河川に隣接した市町村

企業名		
申し込み者氏名		
参加者 ※欄が足りない場合は部署単位の人数表示でも可 ※参加者分析のため部署の記入にご協力ください。	部署	氏名
	部署	氏名
代表者連絡先電話		
連絡用メールアドレス		

※今回は、内容が法人向けのため個人の申し込みはご遠慮頂きます。

※申込者多数の場合は、人数調整をお願いする場合があります。

※報道関係者の方は、当日は冒頭の「勉強会主旨説明」まで取材頂けます。

講演が始まりましたらご退室をお願い致します。

関東ミズベリング勉強会（第1回）
水辺で民活「官民連携かわまちづくり」
～都市再生整備計画を活用した河川のオープン化～

日時：平成30年7月10日（火）14：00～17：00

場所：さいたま市さいたま新都心合同庁舎2号館大研修室5A

主催：国土交通省関東地方整備局河川環境課

趣旨：まちづくりと一体となった水辺の整備・保全を行い地域振興に繋がる民間事業者を推進主体に含む「かわまちづくり計画」の策定を促したい。

プログラム

勉強会主旨説明

1. 資源としての河川利用の高度化

※河川環境行政の方向性

水管理・国土保全局河川環境課企画専門官 榎井 正将

2. 官民連携かわまちづくりの進め方

都市再生整備計画を活用した河川のオープン化

かわまちづくり計画作成上の補足説明

関東地方整備局河川環境課課長補佐 黒沼尚史

<休憩>

3. 多摩川流域まちづくり勉強会の紹介

CCCが主催して発足

※企業・自治体・河川管理者が参加する勉強会

東急電鉄 事業統括部企画課課長補佐 小林 乙哉

4. 羽田空港跡地かわまちづくり計画の紹介

水辺の商業利用を検討中（話題提供）

※大学生観光まちづくりコンテスト2018多摩川ステージ活用予定

大田区 空港まちづくり本部副参事 立花 匡

5. 大学生観光まちづくりコンテスト2018多摩川ステージとは

〇〇大学〇〇チーム〇〇人エントリー

テーマ：多摩川の資源を活かした観光まちづくり

株式会社JTB観光開発プロデューサー中島 浩史

6. 意見交換・質疑応答

※羽田空港跡地かわまちづくり計画を題材に意見交換

1. 資源としての河川利用の高度化

<水辺とまちの未来創造プロジェクトの3つのコンセプト>

- ①まちにある川や水辺空間の賢い利用
- ②民間企業等の民間活力の積極的な参画
- ③市民や企業を巻き込んだソーシャルデザイン

資源としての河川利用の高度化に関する検討会「課題の整理と進めるべき方策」

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shigenkentou/index.html

2. 官民連携かわまちづくりの進め方

2018.03.09 Fri

今年のかわまちづくり全国会議は、観光まちづくりがテーマ



<https://mizbering.jp/archives/21856>

“かわまちづくりはプラットフォームが必要”多摩大学 中庭光彦教授のプレゼンより抜粋
かわまちづくりの課題

かわまちづくりといいますが、かわとまちはつながっているのでしょうか？私はつながりを生むためには「プラットフォーム」が必要だと考えます。

かわまちには訪問目的がない場合がありますが、それでは訪問目的はだれが作るものなのでしょうか？知恵が必要で、知恵が訪問目的を支えます。

だれが訪問目的をつくるのかというと、事業者です。事業者に一定の収益が見込まれるプロジェクトでないと、コミュニティは持続的でなくなる。何度行っても面白いと思う事業が望まれるわけですね。

それでは、かわまちづくりをつくるのはだれでしょうか？そのまちの人たちと行政ですよね？なので、事業者にとってメリットになる戦略、すなわちプラットフォームを誰がどうつくるのか、というのが問題なのです。

川を改修するんじゃなくて、まちで事業してくれる人が、かわでなにかをやってくれると、かわまちづくりになる

3. 羽田空港跡地かわまちづくり計画の紹介

<https://www.city.ota.tokyo.jp/smph/kuseijoho/press/release28/20170324.html>

「かわまちづくり」って何だろう？あなたのアイディアで多摩川の水辺をもっともっと面白く！「羽田空港跡地かわまちづくり」

大田区は、都心では貴重で豊かな自然が残る、多摩川の水辺のポテンシャルを最大限に引き出した「羽田空港跡地かわまちづくり」を進めるために、地域や区民の皆さま、レジャー・観光企業や NPO 法人、関係行政庁など、多様な方々のご意見を交換し、連携することが必要と考えています。

また近隣エリアの大森ふるさとの浜辺公園や、羽田空港周辺まちづくりとも連携することで「面白い！」「ホッとする」と感じる空間づくりを目指します。

「羽田空港跡地かわまちづくり計画」については、下記問合先までご連絡ください。「かわまちづくりって何だろう？」「かわまちづくり面白そう！」「かわまちづくりのアイディアあります！」「かわまちづくりを応援したい！」などなど、皆様のご意見・ご協力お待ちしております！

多摩川沿川自治体対象の取り組み

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki00000050.html

多摩川ステージテーマ：多摩川の資源を活かした「観光まちづくり」

【地域からのメッセージ】

◆多摩川の「資源」とは

自然環境・生態系、草木、人材・団体・企業、文化・歴史、地形、景観、流水、河川空間、まち空間など多摩川流域を構成する多様な要素のことです。

※上記以外で、皆さんが考える新しい「資源」を提案頂いても構いません。

◆皆さんからの提案に期待すること

・「資源」を活かして水辺での新しいビジネス展開を考え、民間の資金やノウハウを活用した河川の有効利用を提案してください。

・各自治体や地元企業が考えているまちづくりと一体となった水辺整備など、利用者にとって快適で安全な水辺空間を創出する「かわまちづくり」となることも期待しています。

<ミズベリング・ビジョンブック>

関係する制度、法律、事例など全部まとめてご覧頂けます。

<https://mizbering.jp/visionbook>

4. 多摩川流域まちづくり勉強会の紹介

http://creative-city.jp/news/2018/0202_182717.html

多摩川流域まちづくり勉強会

クリエイティブ・シティ・コンソーシアム（CCC）が主催して発足した「多摩川流域まちづくり勉強会」。そのキックオフイベントとして、2017年11月2日に「TAMAGAWA OPEN MEET-UP」が開催されました。このイベントは多摩川流域における新しい働き方の実現やイノベーション創出のための開かれた場です。この日は河川敷の空の下、多摩川流域エリアの魅力向上について、参加者とワイワイ語り合いました。これから、多摩川がつなぐ新しい暮らしや働き方を、地域のみなさんと一緒につくっていきます。

2018.02.02 | [活動レポート](#)

TAMAGAWA OPEN MEET-UP REPORT



※世田谷区、大田区、川崎市、京浜河川事務所も H29年度より参加



第1回勉強会の様子